



湖底の観察



学習のねらい

- 湖底の様子を観察することで、湖底の生き物や環境に興味・関心をもつことができる。
- 湖底の堆積物を調べることで、びわ湖の生き物について考えることができる。
- 湖底の指標生物を観察することで、びわ湖の水質について考えることができる。
- 湖底の観察から分かったことを話し合い、生態系の保全について考えることができる。

準備物

うみのこ船内で準備できるもの

- ・ 水中カメラ ・ 採泥器 ・ 顕微鏡
- ・ (タブレットPC) ・ デジタル顕微鏡 ・ (電子黒板)
- ・ ピンセット ・ ナイロン袋 ・ ルーペ ・ バット

乗船校で準備するもの

- ・ 湖底の観察ワークシート
- ・ 使い捨て手袋 (必要に応じて)

主な学習の流れ

ポイント (○) 及び留意点 (☆)

はじめ	1. 本学習のめあてを確認する。 2. <u>水中カメラ</u> で湖底の様子を観察する。 3. <u>採泥器</u> で採泥をする。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識して示す。 ☆場所による比較ができるように、採泥した場所と方法を示す。 ☆採泥器は安全に留意して教師が扱う。
なか	4. 湖底の堆積物の観察をする。 5. 観察の結果や考えたことを交流する。	○発見した生き物を調べられるように、指標生物シートや <u>(デジタル図鑑)</u> を活用する。 ○生き物が生活している環境を調べるために、実際に泥に触って、感触を確かめてもよい。 ☆泥に触ることに抵抗のある児童がいる場合は、安心して観察を行えるように、使い捨て手袋を準備する。 ☆ <u>デジタル顕微鏡</u> を用いて、 <u>(電子黒板)</u> に映すことや <u>(タブレットPC)</u> を使って、見つけたものを写真に撮って記録することもできる。
おわり	6. 本学習のまとめをする。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識してまとめができるようにする。 ○学習のまとめ②や乗船後の学習につながるようにする。

(※1) 活動場所・・・ 各港、多目的室、実験室、活動室

(※2) 実施時期・・・ 通年

※うみのこ船内で準備できるものについては、児童・指導者の人数や班の数に合わせて準備することもできます。